

板橋区生物多様性に関する基礎調査

令和6年度現地調査報告(概要版)

調査地点及び調査項目等

令和6年度の調査として、区内の公園等の12地点を対象として実施した。また、魚類及び底生動物調査においては、水域が存在する6地点を対象とした。

No.	名称	調査項目と調査回数						
		植物	哺乳類	鳥類	両爬虫類	昆虫類	魚類	底生動物
		3回	1回	3回	1回	3回	2回	2回
1	都立城北中央公園	●	●	●	●	●	●	●
2	区立荒川生物生態園及び周辺	●	●	●	●	●	●ワンド※	●ワンド※
3	区立赤塚植物園	●	●	●	●	●		
4	区立赤塚溜池公園	●	●	●	●	●	●	●
5	区立赤塚溜池公園内ピオトープ	●	●	●	●	●	●	●
6	区立見次公園	●	●	●	●	●	●	●
7	区立小豆沢公園	●	●	●	●	●		
8	区立成増五丁目公園	●	●	●	●	●		
9	区立板橋東いこいの森	●	●	●	●	●		
10	区立茂呂山公園	●	●	●	●	●		
11	区立西台公園	●	●	●	●	●		
12	サンシティ	●	●	●	●	●	●	●

※ ワンド：河川敷にできた池状の入り江のこと。

調査内容

調査項目、調査方法及び実施期間を以下に整理した。

調査項目		調査方法	調査時期	調査実施期間
植物	植物相	・任意観察調査	春季	5月1日～24日
			夏季	7月1日～9日
			秋季	9月21日～10月1日
動物	哺乳・両生・爬虫類	・夜間コウモリ調査(バットディテクター※1) ・任意観察調査(目撃・フィールドサイン※2) ・自動撮影カメラ設置	夏季	7月2日～7月24日
			秋季	9月17日～12月22日
	鳥類	・任意観察調査	春季	4月23日～4月29日
			夏季	6月12日～6月27日
			冬季	1月12日～1月24日
	昆虫類	・任意採集調査 ・ベイトトラップ調査※3(1地点あたり3箇所程度)	春季	4月23日～4月28日、5月22日、23日
			夏季	7月16日～7月27日
			秋季	10月7日～10月17日
	魚類	・任意捕獲調査(タモ網、サデ網等)	春季	5月29日、6月27日、28日
			秋季	11月25日、26日
	底生動物	・任意採集調査(Dフレームネット等)	春季	5月29日、6月27日、28日
			秋季	11月25日、26日

※1 バットディテクター:コウモリが発する超音波を検出し、人間の耳で聞こえる音に変換する装置のこと。

※2 フィールドサイン :足跡や糞など、野生動物が生息していることを示す痕跡こと。

※3 ベイトトラップ調査:昆虫類の好む餌(ベイト)を使って、特定の昆虫類をおびき寄せる調査。

調査結果

調査の結果、植物相^{※1}では 774 種、動物相^{※2}では 425 種が確認された。また、調査地ごとの確認種数(植物相と動物相の合計値)を以下の図面に整理した。最も多くの種を確認した場所は、「No.2 荒川生物生態園及び周辺」の 564 種、次いで「No.1 都立城北中央公園」の 556 種であった。なお、「都立光が丘公園」、「都立浮間公園」及び「都立赤塚公園」については、東京都で生物多様性調査を実施している。

※1 植物相:ある地域に生育している植物の全種類を指す。

※2 動物相:ある地域に生育している動物の全種類を指す。

表 確認種数一覧

(種)

調査地	全体	No.1都立 城北中央公園	No.2区立荒川 生物生態園 及び周辺	No.3区立 赤塚植物園	No.4区立 赤塚溜池公園	No.5区立赤塚 溜池公園内 ビオトープ	No.6区立 見次公園	No.7区立 小豆沢公園	No.8区立成増 五丁目公園	No.9区立板橋 東 いこいの森	No.10区立 茂呂山公園	No.11区立 西台公園	No.12 サンシティ
植物相 ^{※1}	774	390	300	303	234	114	258	332	251	155	217	246	355
動物相 ^{※2}	425	166	264	120	145	87	135	163	123	113	120	118	150
昆虫類	311	123	199	98	102	73	99	137	106	95	100	97	109
鳥類	60	28	47	16	32	9	18	18	15	14	16	15	21
哺乳類	8	2	7	3	1	3	2	5	0	2	2	3	3
爬虫類	6	2	2	3	2	1	4	3	2	2	2	3	2
両生類	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
魚類	9	0	3		4	0	4						1
底生動物	28	11	5		4	1	8						12
合計	1199	556	564	423	379	201	393	495	374	268	337	364	505



©「電子地形図 25000 (国土地理院)」を加工して作成

※本調査とは別の調査地で撮影

重要種

各分類群で確認された重要種(東京都レッドリスト 2023 等で指定されている種)は以下のとおりであった。最も多く確認された調査地点は、「No.2 区立荒川生物生態園及び周辺」で、28 種(植物 13 種、動物 28 種)が確認された。ここでは、水域から陸域に徐々に移行するエコトーン帯[※]が存在し多様な環境が形成されているため希少な種(重要種)が多く見られている。

※ エコトーン帯:異なる生態系が接する境界領域のこと。例えば、森林と草原の境目など。

(種)

調査地	全体	No.1都立 城北中央公園	No.2区立荒川 生物生態園 及び周辺	No.3区立 赤塚植物園	No.4区立 赤塚溜池公園	No.5区立赤塚 溜池公園内 ビオトープ	No.6区立 見次公園	No.7区立 小豆沢公園	No.8区立成増 五丁目公園	No.9区立板橋 東 いこいの森	No.10区立 茂呂山公園	No.11区立 西台公園	No.12 サンシティ
植物相	27	1	13	3	1	4	1	3	2	0	2	3	3
動物相	48	11	28	6	10	3	8	6	3	6	3	8	7
昆虫類	4	1	1	1	0	0	0	0	1	2	0	1	0
鳥類	28	6	20	1	6	1	3	2	0	2	1	3	2
哺乳類	3	1	3	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0
爬虫類	4	2	1	3	2	1	2	3	2	2	2	3	2
両生類	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
魚類	3	0	2		1	0	0						0
底生動物	4	1	1		1	0	2						1
合計	75	12	41	9	11	7	9	9	5	6	5	11	10



カワセミ



ハグロトンボ



ニホンヤモリ

外来種

各分類群で確認された外来種は以下のとおりであった。最も多く確認された調査地点は、「No.2 荒川生物生態園及び周辺」で、30 種(植物 23 種、動物 7 種)が確認された。本調査地は、河川及び河川敷のみどりが連続した環境であるため、外部からの外来種等の移入が多いと考えられる。このことから、外来種の現生態系への影響を十分な考慮して、今後の分布域・個体数などに注視していく必要がある。

(種)

調査地	全体	No.1都立 城北中央公園	No.2区立荒川 生物生態園 及び周辺	No.3区立 赤塚植物園	No.4区立 赤塚溜池公園	No.5区立赤塚 溜池公園内 ビオトープ	No.6区立 見次公園	No.7区立 小豆沢公園	No.8区立成増 五丁目公園	No.9区立板橋 東 いこいの森	No.10区立 茂呂山公園	No.11区立 西台公園	No.12 サンシティ
植物相	33	19	23	11	10	7	14	16	11	9	12	8	14
動物相	11	2	7	3	2	2	3	4	1	1	2	2	4
昆虫類	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1
鳥類	2	1	1	1	2	0	0	1	1	1	1	0	1
哺乳類	3	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0	1	1
爬虫類	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
両生類	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
魚類	1	0	1		0	0	0						0
底生動物	2	0	1		0	1	1						1
合計	44	21	30	14	12	9	17	20	12	10	14	10	18



アカボシゴマダラ



ミシシippiaアカミミガメ



ホンセイインコ

板橋区の生物多様性の特徴と課題

地形と生物多様性

板橋区は武蔵野台地の東端に位置し、台地・谷地・湿地・河川・都市環境が混在する地域である。このため、雑木林、河川敷、公園緑地など、多様な生態系が形成され、それに適応した生物が生息している。



環境タイプ	特徴	主な生物
武蔵野台地の雑木林	コナラ・クヌギ中心、昆虫が多い	ホンドタヌキ、アオゲラ、カブトムシ
石神井川・白子川流域	湿地や草地が残る	カワセミ、カモ類、トンボ類
荒川沿いの河川敷	広い河川敷とヨシ原	キツネ、オオタカ、オオヨシキリ
公園・緑地	比較的大きな緑地	シジュウカラ、アズマヒキガエル

生息する動植物について

都市部でも生息可能な動植物が板橋区内でも確認された一方で、生息環境の変化による種数や個体数の減少と外来種の増加が見られる。

- ・哺乳類：ホンドタヌキやキツネを確認。外来種のアライグマやハクビシンが増加傾向。
- ・鳥類：カワセミ、ツバメ、イワツバメを確認。藪環境の減少によりウグイスやアオジの個体数減少。
- ・爬虫類・両生類：ニホンアカガエルやアズマヒキガエルを確認したが、ヘビ類は減少傾向。
- ・昆虫類：アオスジアゲハを多く確認したが、カブトムシ・クワガタムシの確認数は少ない。
- ・植物：コナラ・クヌギなど外来種と、オオフサモやアレチウリなどの外来種が混在。

生物多様性の特徴と対策の必要性

板橋区は台地・谷・低地の多様な地形が生物の生息環境を支えている。特に荒川沿いのエリアは生物の生息に適した環境が広がる。一方で、湧水や湿地の減少や、外来種の増加が見られる。また、区の中南部では緑地が分断された箇所があり、みどりのネットワークの維持が課題となっている。



生物多様性の課題

1. 生息環境の減少

- － 宅地化等により、雑木林・湧水地・湿地が減少し、生物の生息・繁殖が困難になっている。
- － 緑地の分断により、ホンドタヌキなどの移動が難しい状況になっている。

2. 外来種の影響

- － アメリカザリガニが在来水生昆虫・両生類を捕食してしまう。
- － アライグマ・ハクビシンが在来哺乳類に悪影響を及ぼす。
- － セイタカアワダチソウなどの外来植物が在来種の生息地を侵食している。

3. 人と自然の関わりの希薄化

- － 自然との触れ合う機会が減少し、自然への関心が希薄になっている。

課題解決には、生息環境の保全・回復、外来種対策、市民参加による自然環境保全の推進が必要である。

